

ポリマーセメント系無収縮グラウト材

プレミックスタイプ

太平洋 プレユ-ロックス[®]DXP



【太平洋プレユーロックス DXP】は、当社ユーロックスシリーズとして粉末樹脂ならびに特殊混和材を配合し新たに開発した高品質なポリマーセメント系無収縮グラウト材です。低発熱性、低乾燥収縮性により型枠取り外し後のひび割れを低減し、「躯体コンクリートとの接着性・接着耐久性」、「遮塩性」、「中性化抵抗性」、「凍結融解抵抗性」などの耐候性・耐久性を付与、これにより従来と比べて幅広い分野で使用できるポリマーセメント系無収縮性グラウト材です。また、本製品は施工現場での労働環境における負荷を低減すべく、**粉塵低減材をプレミックス**、さらに荷姿を**18kg/袋**としております。

特長

1 プレミックスタイプ

プレミックスタイプであるため、いつも均一な品質・性能が得られます。現場で所定水量と練り混ぜるだけで高品質なポリマーセメント系無収縮グラウト材が得られます。荷姿も18kg/袋とコンパクトサイズにしました。

2 高流動性

材料分離抵抗性に加え、優れた流動性を発揮するため、間隙をスムーズに充てんすることができ、作業性・成形性に優れます。

3 ノンブリーディング

充てん後にブリーディングが発生しないため、硬化後の空隙処理が不要です。

4 無収縮性

ノンブリーディングであり、かつ適量配合された石灰系膨張材の作用により、拘束条件下で無収縮性が発揮されます。

5 強度発現性

短期から長期にわたり安定した強度特性を示します。

6 低乾燥収縮性

乾燥に伴う収縮が比較的少ないため、型枠取り外し後のひび割れ発生を抑制します。

7 耐候性・耐久性

粉末樹脂ならびに特殊混和材であるアルミノシリケート系塩分浸透抑制材の使用により、コンクリートとの接着性、遮塩性、中性化抵抗性、凍結融解抵抗性などに優れ、耐候性・耐久性を向上させます。

8 優れた施工性

ハンドミキサ等の機械練りが可能で、モルタルポンプにより圧送することができます。

9 低発熱性

一般の汎用型無収縮グラウト材に比べ、水和に伴う温度上昇量が小さいことから、比較的大きな断面の充てんに適用可能です。

10 粉塵低減性

粉塵低減性能により、製品攪拌時のミキサ等への投入の際に発生する粉塵を低減できます。

荷姿

製品名	規格・仕様	荷姿
太平洋プレユーロックス DXP	プレミックス型	18kg/袋

標準調(配)合例

区分	練上り温度(℃)	コンシステンシー(フロー値 mm)	太平洋プレユーロックス DXP(kg)	練混ぜ水量(kg)	練上り量(ℓ)
単位量	5 ~ 35	220 ~ 310 (推奨: 260 ~ 310)	1900 (約 106 袋)	253	1,000
現場配(調)合			18 (1 袋)	2.4	約 9.5

注1 コンシステンシー: JIS R 5201 「セメントの物理試験方法」に記載されている JIS フローコーンを用い、落下運動を与えずに測定したフロー値を指します。

注2 外気温度、材料温度、練混ぜ水温度により規定とするコンシステンシーを得るための水量が若干変動しますので、事前に試し練りを行い、水量の確認を行ってください。練混ぜ水量の範囲は、2.1 ~ 2.6kg / 袋 (推奨 2.3 ~ 2.6kg / 袋) の範囲で使用してください。

注3 練混ぜは機械練りとし、全材料投入後 (90 ~ 120 秒) 程度練混ぜを行ってください。

用途例

- 道路橋、鉄道橋、栈橋等における鉄筋コンクリート造の柱、梁の断面修復。
- 環境から想定される劣化要因 (凍害、塩害等) に対して、耐久性を考慮したい部材の断面修復。
- 比較的大断面となる部材の断面修復や部材間の充てん。

特性例

太平洋ブルーロック DXP 18kg / 袋		養生温度 (°C)			試験方法
		5	20	30	
練混ぜ水量 (kg / 袋・18kg)		2.30	2.40	2.40	—
練上がり温度 (°C)		8	22	33	—
ブリーディング率 (%)		—	0.0	—	JIS A 1123 に準じる
コンシステンシー (フロー値 mm)		282	278	262	JIS R 5201 に準じる
単位容積質量 (kg / ℓ)		—	2.15	—	JIS A 1171 に準じる
凝結時間 (h-min)	始発	13-05	8-40	7-00	JIS A 1147 に準じる
	終結	18-00	10-15	8-05	
圧縮強度 (N/mm ²)	3日	16.1	32.8	38.1	JIS A 1108 に準じる [供試体寸法: 円柱供試体 φ 50mm H100mm] [養生方法: 水中養生]
	7日	28.4	45.2	47.2	
	28日	42.2	58.4	59.0	
	社内規格値 (材齢 28日)	—	45 以上	—	
静弾性係数 (× 10 ⁴ N/mm ²)		—	2.80	—	JIS A 1149 に準じる
鉄筋付着強度 (N/mm ²)		—	4.5	—	NEXCO 試験方法 312 に準じる
膨張収縮率 (%)		—	0.31	—	JSCE-F 542 に準じる
塩化物イオン量 (kg / m ³)		—	0.10	—	JASS-5T-502 に準じる

- ◎本表に記載の数値については、実験に基づく物性値です。
- ◎練混ぜ水量は、気温・練混ぜ水温・材料温度等の影響により若干変動します。
- ◎本表に記載の養生温度は、環境温度・練混ぜ水の水温・材料の温度を全て同条件にしています。
- ◎本製品のコンシステンシーは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」に記載されている JIS フローコーンを用い、落下運動を与えずに測定したフロー値を指します。
- ◎圧縮強度に記載しております社内規格値は、20°C環境下での本製品の社内規格値を示したものです。

その他の特性例

粉塵低減性 (粉塵発生量)

社内法

本製品: 9.2CPM
一般の汎用型無収縮グラウト材: 166.4CPM

遮塩性 (塩化物イオン浸透深さ)

JIS A 1171 に準じる

本製品: 0.59cm [浸漬期間 26 週]
コンクリート: 4.10cm [浸漬期間 26 週]

長さ変化 (乾燥収縮)

JIS A 1129 に準じる

4.58 × 10⁻⁴ [材齢 3 ヶ月、20°C 気中養生]

コンクリートとの付着強度

JSCE-K-531 に準じる

標準: 4.36N/mm² [材齢 28 日、20°C 気中養生]
水中: 2.82N/mm² [材齢 28 日、20°C 水中養生]
多湿: 3.63N/mm² [材齢 28 日、20°C 相対湿度 90% 以上]
低温: 3.73N/mm² [材齢 28 日、5°C 気中養生]
乾湿繰り返し後: 3.20N/mm² [標準養生後、乾湿繰り返し]
温冷繰り返し後: 3.92N/mm² [標準養生後、温冷繰り返し]
3% 塩化ナトリウム溶液浸漬後: 4.07N/mm² [標準養生後、30 日間浸漬]

凍結融解抵抗性

JIS A 1148 に準じる

相対動弾性係数: 100.2% [300 サイクル]
重量減少率: -1.2% [増加、300 サイクル]

中性化抵抗性 (中性化深さ)

JIS A 1153 に準じる

本製品: 1.3mm [促進期間 26 週]
コンクリート: 11.7mm [促進期間 26 週]

電気抵抗率

JSCE-G-581 に準じる

45.5k Ω・cm [材齢 28 日、20°C 封緘養生]

曲げ強度

JIS A 1106 に準じる

11.7N/mm² [材齢 28 日、20°C 水中養生]

モルタル温度上昇量

社内法

本製品: 30.8°C [最高温度到達時間 12 時間 50 分]
一般の汎用型無収縮グラウト材: 72.8°C
[最高温度到達時間 8 時間 45 分]

使用方法

下地処理

目荒らし

モルタルの接地面については目荒らしを行い、目荒らし等の処置が不可の場合はレイタンス等の除去を行ってください。

水濡し又は吸水調整材塗布

モルタルの接地面については水濡しを行い、接地面の乾燥が著しい場合や打設までに時間を要する場合は吸水調整材(TM ポリマー C)の塗布を推奨します。

練混ぜ

練混ぜ水

練混ぜ水は、有機不純物等を含まない清水としてください。

水量

練混ぜ水量は、カタログ記載範囲内の水量にて、コンシステンシー(テーブルフロー試験)が規格値範囲内となる水量としてください。外気温度、水温、使用機械、その他現場環境等により、目標とするコンシステンシーを得るための水量は変動します。このため、使用に際しては事前に試し練りを実施し適正な練混ぜ水量の計量を行ってください。規定コンシステンシーの範囲を外れた配合(水量)で使用しないでください。

練混ぜ温度

練上り温度は、5～35℃の範囲としてください。

暑中対策

夏場の高温環境下での施工については、材料を直射日光の当たらない場所に保管し、環境に応じてあらかじめ冷却した練混ぜ水を使用して、練混ぜ温度が35℃以下となるようにしてください。

寒中対策

冬場の低温環境下での施工については、材料を屋内やシート養生により保管し、環境に応じてあらかじめ温めた練混ぜ水を使用して、練混ぜ温度が5℃以上となるようにしてください。

練混ぜ

練混ぜは機械練りで参考練混ぜ時間(90秒～120秒)を目安に均一に練り混ぜてください。アルミ製羽根のハンドミキサで練混ぜを行うと、アルミ部材が摩耗し、施工後モルタルが異常膨張することがありますので使用しないでください。練混ぜは800回転以上の高速ミキサを使用してください。回転の遅いミキサを使用して練り混ぜた場合、均一に混ざらない恐れがあります。

品質管理試験

施工時の品質管理試験は、コンシステンシー(テーブルフロー試験)の測定を行ってください。又、必要に応じて圧縮強度測定用に供試体(φ50mm H:100mm)の採取を行ってください。圧縮強度用供試体を作製する場合、成形後直ちに上面をラップ等で密封し、水分の蒸発を防ぐようにしてください。本製品を用いた圧縮強度供試体の作り方は、別添リーフレット等の資料を参考にしてください。

打設

型枠(拘束)

拘束条件が不十分な箇所に打設した場合、ひび割れが発生するおそれがありますので留意ください。

仕上げ

硬化後、モルタル表面が露出する箇所については、コテ押えをし、表面の仕上げ処理を行ってください。コテ押えが不十分な場合、プラスチックひび割れ等の発生要因となるおそれがあります。

養生

露出面の養生

硬化後、モルタル表面が露出する箇所や弱材齢状況下で型枠の早期脱型を必要とする場合は、乾燥によるひび割れが発生する恐れがありますので、湿潤養生を行うか、又は塗膜養生剤(キュアキーパー)の塗布による塗膜養生又は硬化後の塗布型収縮低減剤(クラックセイバー)の塗布を推奨します。但し塗膜養生剤は仕上げ材との相性がありますので、ご使用の際は弊社までお問合わせください。

暑中対策

夏場の高温環境下における施工では、打設箇所に直射日光が当たらないようにシート等にて養生してください。

寒中対策

冬場の低温環境下における施工で打設後に5℃以下となる場合、シートや灯光器等を用いて保温養生をしてください。

養生期間

打設完了後、モルタルが完全に硬化するまでは、衝撃、振動等を与えないようにし、露出面がある場合、露出面に風雨等が直接当たらないようにシート等にて養生してください。養生期間は、強度発現時(3日以上)を目安とします。ただし、諸条件により3日以内の早期脱型を必要とする場合は、カタログ記載物性値を参考に判断願います。

保管・廃棄 その他

保管

材料の保管には雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷き床面から離れた状態でビニールシート等で覆ってください。又、一旦開封したものは、その日のうちに使用してください。

廃棄

廃棄する場合は、硬化後に産業廃棄物として処理業者に廃棄をご依頼ください。排水等は、水質汚濁防止法等の関係諸法令に従って廃棄してください。

その他

本カタログ記載外の用途に使用される場合は、ご使用者側にて調査検討の上、御不明な点をご相談いただけますようお願いいたします。

ロットナンバー

製品のロットナンバーは製造年月日を表し、「MMDDY」の場合、MM:製造月(2桁) DD:製造日(2桁) Y:製造年(西暦1桁)となります。例) 03095の場合は、2015年 3月9日製造となります。

安全上の注意事項



- 本製品は、カタログに記載されている方法でご使用ください。
- 本製品はセメントと同様にアルカリ性を示します。使用の際は、眼鼻皮膚及び衣類に触れぬよう保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)を着用の上ご使用ください。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに清水で充分洗浄した後、医師の治療を受けてください。
- 皮膚に付着すると肌荒れを起こすことがありますので、直ちに水洗いしてください。
- 作業後は手洗い、うがいをしてください。
- 製品の使用にあたってはSDSを参照願います。

太平洋マテリアル株式会社

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー15階 ☎03-5832-5217

URL <https://www.taiheiyo-m.co.jp>

営業本部 機能性材料営業部

北海道営業部	〒060-0004	北海道札幌市中央区北4条西5-1-3	日本生命北門館ビル	☎011-221-5855	
東北支店	〒980-0804	宮城県仙台市青葉区大町1-1-1	大同生命仙台青葉ビル	☎022-221-4511	
東京支社	〒114-0014	東京都北区田端6-1-1	田端ASUKAタワー16階	☎03-5832-5242	
関東営業部	〒370-0849	群馬県高崎市八島町58-1	ウエスト・ワンビル5F	☎027-329-5970	
中部支店	〒453-0801	愛知県名古屋市中区村中3-1-18	名古屋KSビル	☎052-452-7141	
関西支店	〒532-0011	大阪府大阪市淀川区西中島4-3-2	類ビル	☎06-7668-6001	
広島営業部	〒732-0828	広島県広島市南区区橋町1-23	大樹生命広島駅前ビル	☎082-261-7191	
高松営業部	〒760-0050	香川県高松市亀井町7-15	セントラルビル	☎087-833-5758	
九州支店	〒810-0001	福岡県福岡市中央区天神4-2-31	第2サンビル	☎092-781-5331	
海外営業部	〒114-0014	東京都北区田端6-1-1	田端ASUKAタワー15階	☎03-5832-5226	
北東北営業所	☎019-908-2400	静岡営業所	☎054-685-8333	沖縄営業所	☎098-867-9663
北陸営業所	☎076-234-1670	鹿児島営業所	☎099-812-7131		

●本製品の仕様は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

●本カタログに記載された事項は、弊社の実験結果に基づくものでありますが、各種条件により実際の現場結果を確実に保証するものではありません。